



オーストラリア直送レポート

Vol.7

2015.8.11 陸から海へ！気分は船長

- ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課・林
- パーマストン校・ローズベリー校グループ／教育委員会社会教育課・岩崎

【DS校グループ】

市内研修2日目！今日は、朝から気になることがありました。生徒たちの挨拶の音が小さい場面や、団体行動が遅い場面が続いたので少し生徒たちに話をしました。市内見学に出かける時には、理解してくれたのかキビキビ動いてくれました。

バスに揺られること約15分、本日の目的地の一つ「Land Sea Adventure」に到着しました。ここでは通称ダックボート（水陸両用車）に乗りこみ、近くの



海岸から大海原にレッツゴー。乗客は、日本の生徒とホストブラザー／シスターだけだったことや、初めて船に乗る子もいたので、海に入る瞬間は歓声が上がっていました。いざ海のドライブが始まると、ガイドの方がクロコダイルの頭蓋骨の剥製を生徒に持たせてくれて、みんな興味深々でした。また、船長帽子をかぶらせてもらって、ダックボートを運転をさせてもらいました。操縦桿を握った時は緊張しているように見えたが、周りの子たちが写真を撮り始めると、リラックスしてポーズを決めていました。約1時間の海の旅から帰ってくると、ウォーターフロントという、和歌山にある某海上施設の何倍もの大きさ



の公園で昼食をとりました。

午後からは、「Darwin Museum」に行きました。ここには、アボリジニの歴史や生活、芸術、オーストラリアに生息する動物の標本、ダーウィン市を襲ったサイクロンのことなど、幅広い展示物があります。各展示物をそれぞれの興味に合わせて、真剣な表情で見学したり写真を撮っていました。英語の説明書きの内容が分からなくても、多感なこの時期だからこそ作品そのものから感じれるものがあると思います。

この数日間、ホストファミリーであるDS校生徒が「オハヨウゴザイマス！」など日本語で話しかけてくれます。日本の生徒がつたない英語で、またDS校生徒がつたない日本語で話している姿を見ると、微笑ましい気持ちになると同時に、お互いの言語に違いはありながらも、考え方や習慣を理解しあう



努力の大切さに改めて気付きました。手を伸ばせば、そこに日本とは違う言語や文化、習慣を感じることもできる、今という時を大事にしてほしいです。

【PS校・RB校グループ】

午前中の活動は、ほぼ体育の授業でした。みんな元気に活動していたけれど、3～4限のダンスの授業は、音楽に合わせてストレッチやダンスをずっと続けたので、相当ハードだったのではないかな？ 2人の生徒が自分の踊りを披露してくれ、それぞれとても上手で、みんなとても驚いていました。最後は、今日教えてもらったところまでをみんなで合わせて踊りました。なかなかの出来映えだったのではないかと思います。

1時から、パーマストン市長さんへ表敬訪問。50歳という若い市長さんですが、生徒たちの質問に快く答えてくれ、写真もたくさん撮らせていただきました。パーマストンは平均年齢が28歳。人口の30%が15歳以下という非常に若い人たちの町で、オーストラリアで一番速いスピードで町が成長し続けている町とのこと。まだまだ人口は増加し、町は広がり続けているということでした。

有田川町から届けられた、たくさんの品々が議場前に置かれていて、有田川町との友好の歴史を実感しました。アボット市長さんは来年日本に来られ、有田川町を訪問されるらしい。忙しいなか私たちのために貴重な時間を割いて歓迎してくださり、とても嬉しく思いました。

